



*Infol*eak

前の総会で認められた京機活性化のための種々の改革につき、具体的方法が検討されています。その幹事会での審議内容の要点をリークします。次の評議員会、総会での審議と関係のある内容です。

ご検討の程、宜しくお願い申し上げます。

御意見は京機事務局

E-Mail: jimukyoku@keikikai.jp、

TEL&FAX:075-753-5183

宛にお願い致します。

1. < 常任委員会 > 設置の提案

平成17年度は特別委員会を設置し、各種の検討を行ったが、要審議事項が多く、各回、時間が足りない状態であった。京機運営に関わる各種の取り組みに対して、幹事会での審議だけでは無理があり、京機運営を指揮できる実質的な組織(運営主体組織)が必要ではないかと考えられ、これが次の評議委員会・総会に提案される。なお、現在は運営実行部隊がない状態で、京機運営は事務担当に任せきりで進められている。運営委員会委員は、代表幹事を含み、会長が指名するものとし、本部・支部役員でない方の指名も可能である。会則と内規は、常任委員会の設置に対応して修正が必要となる。

平成18年度については、代表幹事は熊本教授から吉村教授に交替予定であり、また、この他の委員として、平成17年度の特別委員であった中川、久保、牧野、熊澤、松久、石山氏を川口会長が指名(運営委員長は、特別委員会委員長であった久保氏)。会長はオブザーバーとして参加する。

2. 京都大学機械系工学会フェローとその選考内規(案)

下記の案が提案されています。

1. フェロー制度の目的

京都大学機械系工学会(以下、京機会)に顕著な功績のあった会員を称えることにより、京機会全体のより一層の活性化と発展を図る。

2. フェロー候補者資格

フェローの候補者は、以下のいずれかである京機会会員であることを要する：

京機会運営に顕著な功績のあった者

- 例 A. 会長経験者
B. 支部長累積2年以上の経験者
C. 代表幹事累積2年以上の経験者
D. 本部幹事累積4年以上の経験者
E. その他

会員に模範たる行為・業績のあった者

- 例 A. 京機会活動に於ける特別企画の実行者
B. 多額寄付者
C. 京機会活動への熱心な協力者
D. その他

社会に顕著な貢献をした者

3. フェローの選考手順

(1) 推薦人資格

1名以上の本部幹事または支部役員を含む、1名または複数の京機会会員が、フェローの候補者を推薦することができる。

(2) 候補の推薦時期

推薦人は、毎年8月末日までに新規フェローの候補者を推薦する書類を京機会事務局に送付する。

(3) 推薦書式

推薦時に提出する書類と様式は別に定める。上記2.フェロー候補者資格の審査が行えるだけの資料を提出することを要す。

(4) フェローの決定

京機会幹事会の中に新たに設けられる常任委員会が、提出された推薦書類を整理・審議し、幹事会に提出する。幹事会において、出席者の全員一致あるいは3/4以上の賛成と、本人の同意により、フェローは決定される。

4. 発表その他

(1) 発表

毎年、秋の総会で新規のフェローを発表し、京機会ニュースに掲載する。

(2) 名簿掲載

京機会名簿には、巻頭にフェローのページを設ける。

(3) 称号明示

一般には(卒業年度 氏名)としている表記に、「京機会フェロー」を追加する。
すなわち、(卒業年度 京機会フェロー 氏名)。

(4) 顕彰

新規フェローには、フェロー証と記念品を贈答する。

(5) 葬祭

フェローの葬祭については京機会より献花をするなど、弔意を表す。

お知らせ

前の総会で認められた京機会の**永年会員制度**ですが、すでに発効し、会員の受付を開始致しております。

60歳以上の会員は、永年会費 60,000 円を納入することにより、その後の年会費はなく、生涯、京機会会員サービスを受けられます。 但し、永年会員登録に際し、既払い込みの会費の返金は致しませんので、ご了承ください。

近々、郵送でお手元にお届けする京機会ニュースに、振り込み用紙を同封致しますので、ご利用ください。 なお、永年会員登録は今回のみではなく、常時、受け付けております。

何卒、ご検討の程、お願い申し上げます。

京機会のメールアドレスとホームページの URL が変更になりました。

E-mail: jimukyoku@keikikai.jp

URL: <http://www.keikikai.jp>

平成18年度京機会春季大会・総会開催のご案内

日 時：平成18年5月19日(金) 13:30～

会 場：住友電気工業(株) 伊丹工場

〒664-0016 伊丹市昆陽北1-1-1 TEL (072) 772-3300

○JR宝塚線「伊丹」駅より伊丹市営バス利用15分、

○阪急伊丹線「伊丹」駅より伊丹市営バス利用10分、

両駅共に、2番乗場から「昆陽里」行で「寺本公団前」

下車、もしくは、4番乗場から「西野武庫川センター」

「JR中山寺」行で「伊丹病院住友前」下車

○タクシーの際は、正門(伊丹病院住友前)が便利です。



行 事：

1. 開会挨拶 13:30～13:35

2. 総 会 14:35～14:25

1) 平成17年度活動報告 2) 会計報告・会計監査報告 3) 支部報告

4) 役員改選等 5) 新年度運営方針 6) その他

3. 技術講演会・見学会 14:30～17:10

『自動車の安全技術の最新動向と住友電工の取り組み』 村瀬 亨氏(S51)

ぶつからない車をめざして、自動車の予防安全技術を展望する。

『切削加工の現状と将来』 佐橋 稔之氏(S59)

「より速く」「より美しく」削ること。工具の視点から、これから目指すものをご紹介します。

4. 工場見学 15:50～17:15

「超硬工具製造工場」「プレーキ工場」

懇親会： 17:45～19:10

会 場：スワンホール

会 費： 6,000 円 学生 3,000 円(当日会場でお支払い下さい)

● **ご自由な服装でお越しください。**

詳細、申し込みは、4月28日までに上記 URL へ

京機短信への寄稿、宜しくお願い申し上げます

【処理要領】

宛先は京機会の e-mail: jimukyoku@keikikai.jp です。

内容的にOKの寄稿については、記事を「京機短信」の所定ページに収めるための編修的修正をエディターが勝手に行います。ページに収めるための大きさの修正が難しい原稿は自動的に掲載が遅れ、あるいは、掲載不能となります。発行までの時間的制約、ボランティアとしての編集実務負荷の限界のため、原則として、発行前の著者へのゲラプルーフは行いません。

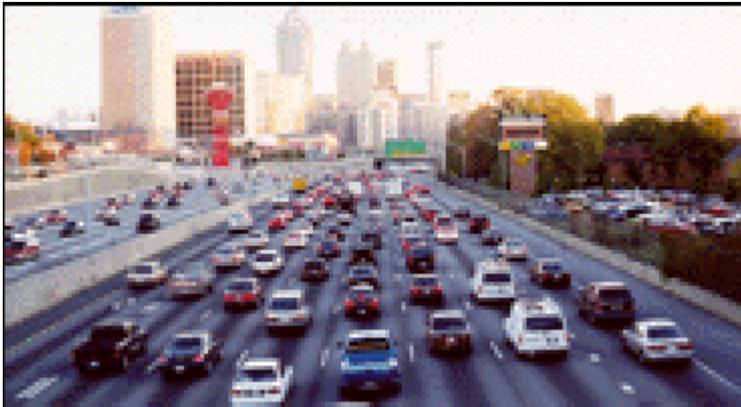
12. 技術と民主主義 (つづき)

前号に記したことは技術の提供者と一般大衆との間の公平問題だが、一般大衆の間にも技術を使える者と使えない者との公平問題がある。たとえば社会の生活環境がパソコンの個人的使用を前提としたものになるに従い、それを使えない人達が取り残され不利を蒙るようになった。これに対しては使用法の教育、使いやすい製品の開発、経済力の向上、普及の支援策などが考えられているが、世界の隅々まで行き渡るまでには長年月を要し、残った人の数が少なくなればなるほどその存在が軽視されて

より不公平な扱いを受ける可能性がある。公平問題は自動車にもある。

個人の自由を何よりも重んずるアメリカでは、鉄道などの公共交通機関よりも自家用車優先の交通体系を強力に推し進めてきた(ある自動車企業が次々と鉄道を買収しては廃止したという説もある)。しかし、ほとんど自家用車普及の限界に達した現在でも、老人や子供も含めれば人口

この記事中の地図・写真等は、本文と関係ありません。



<http://www.ejrc.cau.edu/transequenewsvol1.htm>

Table 1 Equity Evaluation Variables

Types of Equity	Categories	Impacts	Measurement Units
<ul style="list-style-type: none"> Horizontal Vertical with-respect-to income and social class. Vertical with-respect-to need and ability. 	<ul style="list-style-type: none"> Demographics (age, gender, race, ethnic group, family status, etc.) Income class. Geographic location. Ability (e.g., people with disabilities, licensed drivers, etc.). Mode (walkers, cyclists, motorists, bus users, etc.). Vehicle type (cars, trucks, buses, etc.). Industry (truckers, transit, taxis, vehicle manufactures, etc.). Trip type and value. 	<ul style="list-style-type: none"> Price or fare structure. Tax burdens. Transportation service quality. External costs (crash risk, congestion, pollution, etc.). Economic opportunity and development. Transport industry employment and business opportunities. 	<ul style="list-style-type: none"> Per capita. Per vehicle-mile or kilometer. Per passenger-mile or kilometer. Per trip. Per peak-period trip. Per dollar paid in fare or tax subsidy.

This table identifies factors that can affect equity analysis, including the type of equity considered, how people are categorized, which impacts are considered, and how they are measured.

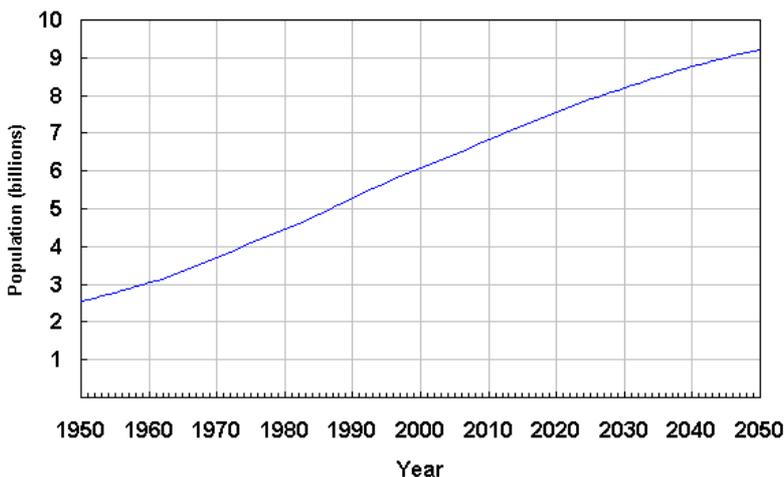
<http://www.vtpi.org/equity.pdf>

の半数が自動車を使えず、交通の自由が奪われて不便を余儀なくされている。日本でも同様な現象が見られる。アメリカではそれが反省されるようになり、数年前に交通の公平に関する法律ができた²。この法律では、自家用車の一層の普及促進とは反対に、自家用車優先をやめ自転車や歩行者優先の道路交通政策が謳われている。

技術を自由に利用できる者とできない者との格差は、永久になくせないどころか、将来ますます深刻化する可能性が大きい。その理由は、エネルギーや材料資源を大量に消費する現在のような技術が世界中に遍く普及するだけの能力を、地球が持っていないことに因る。仮に材料不足は再生利用によりある程度補っても、それにはふんだんなエネルギーを要する。ところがエネルギーの不足は誰の目にも明らかである。2000年における一次エネルギーの一人当り消費量は世界平均が石油換算 1.66t であるのに対し、先進国の中で最もエネルギー効率が高いと言われる日本でも 4.21t である。世界中が日本と同等の一人当りエネルギーを使えば、世界の総エネルギー

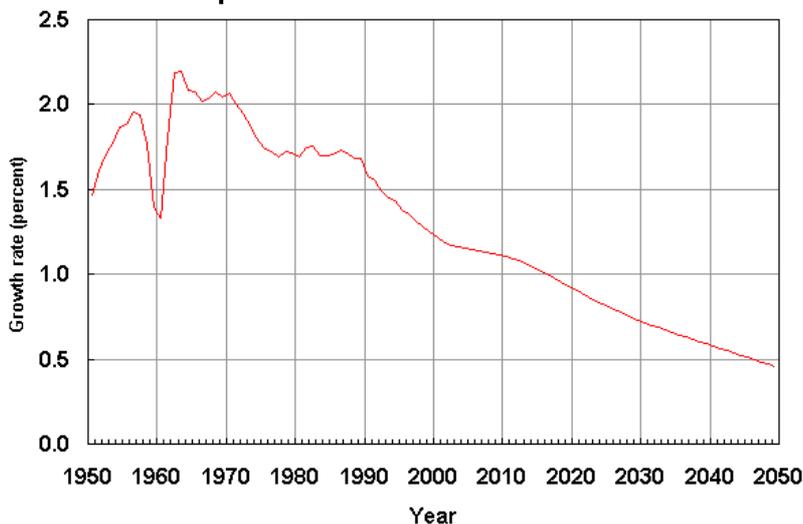
需要は、人口が増えなくても、現在の 2.5 倍となる。一方、石油は既に新規の油田発見が 1960 年代に峠を越し(年間に発見される新油田の埋蔵量が、年間石油消費量より少ない)、ほとんどの石油専門家は 2010 年までに石油生産は頂点を過ぎて下降に向かい、天然ガスも続いて下降すると予測している³。石炭ならまだ何百年分あると言われるが、それでも期限のある話である上、石炭の質が年々低下し、採掘の経済的・エネルギー的コストが年々増大することが忘れられている。太陽光エネルギーなどのいわゆる再生エネルギー、オイルサンドやメタンハイドレートなどの新化石燃料、核融合その他の新エネルギー技術への熱

World Population: 1950-2050



Source: U.S. Census Bureau, International Data Base, April 2005 version.

World Population Growth Rate: 1950-2050



Source: U.S. Census Bureau, International Data Base, April 2005 version.

<http://www.census.gov/ipc/www/world.html>

Foot note 2

TEA-21 - Transportation Equity Act for the 21st Century

Foot note 3

Richard Heinberg, "The Party's Over: Oil, War, and the Fate of Industrial Societies", New Society Publishers

Production And Consumption - World (1998)

	1998 PRODUCTION QUAD BTU ¹	Percent of Total Production	1998 Consumption in NATIVE UNITS ³
Oil	152.0	40.0 %	73.6 million barrels/day
Natural Gas	85.5	22.5 %	82.2 tcf/year
Coal	88.6	23.3 %	5.01 billion tons/year
Nuclear	24.5	6.5 %	2.3 trillion kWh/year
Hydroelectric	26.6	7.0 %	2.6 trillion kWh/year
Biomass (and other ²)	2.5	0.7 %	196 billion kWh/year
TOTAL	379.7	100 %	

¹ EIA International Energy Annual 1998 Overview

² Quad Btu numbers include biomass, geothermal, solar, and wind electric

³ EIA International Energy Annual 1998 [\[Back\]](#)

Consumption - United States vs. World (1998)

	U.S.	World	% U.S. Total ¹
Oil	18.92 million barrels/day	73.6 million barrels/day	40 %
Natural Gas	21.34 tcf/year	82.2 tcf/year	23 %
Coal	1.04 billion tons/year	5.01 billion tons/year	23 %

¹ Calculated on a Btu basis [\[Back\]](#)

Consumption in 1997 by sector: - United States

Transportation	25.04 quads	27%
Industrial	35.43 quads	38%
Residential & commercial	33.74 quads	36%
TOTAL	94.21 quads	

EIA Annual Energy Review 1998 (published January 2000) [\[Back\]](#)

Undiscovered Resources - United States

	EIA (1/98)	Onshore USGS (95 Assessment)	Offshore MMS (95 Assessment)
Crude Oil	142 Bbbl	90.3 Bbbl	45.6 Bbbl
Natural gas	1245 tcf	580.7 tcf	268.0 tcf
NGL	25 Bbbl	20.6 Bbbl	

[\[Back\]](#)

http://energy.cr.usgs.gov/energy/stats_ctry/Stat1.html#WProduction

い期待にもかかわらず、経済的・量的・質的に石油に替わり得るエネルギー源は実際のところ存在しない。消費可能なエネルギー総量は、近い将来を境に下降の一途を辿ることが確実である。エネルギー以外の多くの金属資源でも同じ事が言える。

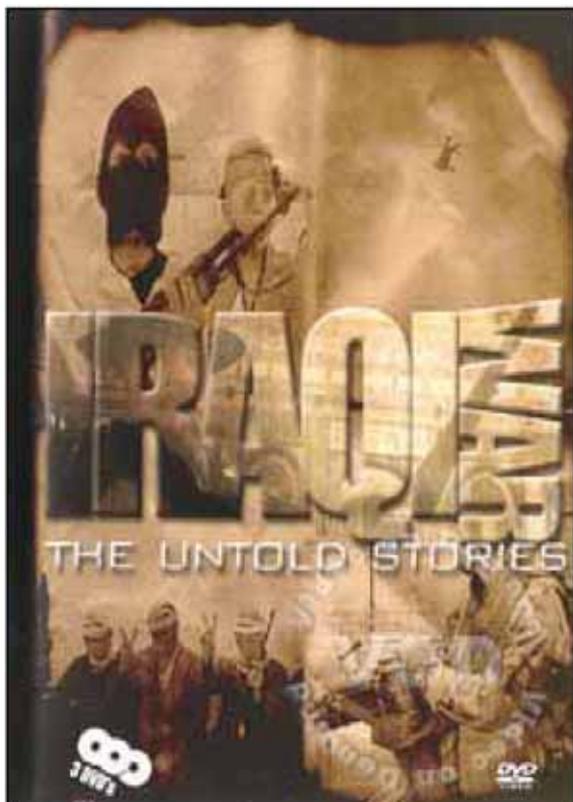
本来、地球上の全ての人間(および生物)は、地球の資源に対して平等な権利がある。現在生きている人達だけでなく、将来生まれる人達もまた、同じ権利を持っている。しかし限られた地球の資源量と現在の世界人口では、人間一人一人に対する割当はそれほど多くない。現在の技術クラブは、技術クラブに入れない人達や子孫の分まで資源を独占することによって、初めて成り立っているのである。中国人やイン

ド人を初めとして、技術クラブの新会員が急速に増えようとしているが、地球上の人間すべてが会員になることは不可能なので、入会は年々厳しくなり、会員と非会員の格差はますます広がってゆく。 会員であり続けるためには、非会員や将来世代の資源割当をますます多く独占しなければならず、会員同士の資源争いも厳しくなっている。 現在、武力衝突は顕著でないが、それは必ずしも公平であることを意味せず、

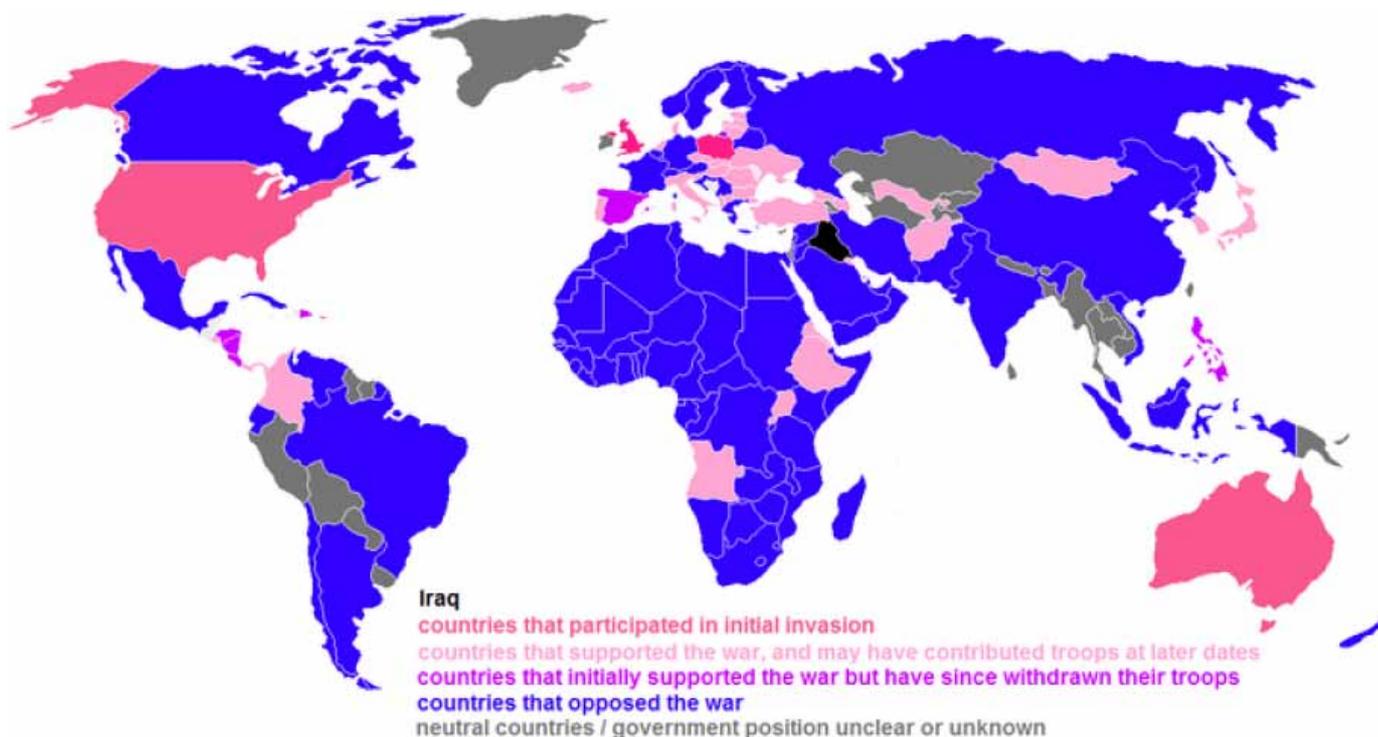
経済的・軍事的に弱い者が極めて安い値段で提供することを余儀なくされている。 今後、あからさまに武力が行使される可能性は決して小さくない。 技術クラブの会員が享受している自由とは、持たざるものとの差別に基づく、持てるものだけの自由に過ぎないのである。 ただし、如何に強力な手段で資源を独占しても、独占を続ける限り平和は来ない。 独占できた資源も遅かれ早かれ底をつく。 資源争奪戦は勝っても負けても破滅しかない、割の合わない戦いである。 資源の独占を図るのではなく、公平な分配を考える以外に持続可能(Sustainable)への道はない。

(つづく)

(1964年卒 石田靖彦 isiyas@aa.bb-east.ne.jp)



http://www.vod.com/video/48161/Iraqi-War-The-Untold-Stories-The-Aftermath:-National-Security/?id=48161&LID=653620120m_rs%20&language=japanese&setlanguage=japanese



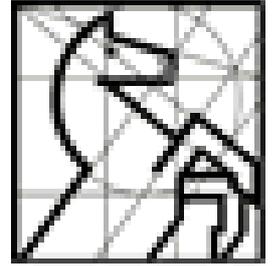
http://en.wikipedia.org/wiki/Image:Country_positions_Iraq_war.png

講演会ご案内

日本機械学会と“CO-OPERATION”の協定を結んでいる
英国機械学会 (IMechE) の理事長 Sir Michael Moore が
今般来日されるのを機会に、御講演を頂くことになりました。

演題： The Importance of Engineers

イギリスの機械工学、機械学会の現状や将来に関するもので、日本の機械工学、機械学会にとっても示唆するところが多いと思います。



IMECH E

講演者： Sir Michael Moore (KBE LVO)

IMechE (The Institution of Mechanical engineers)
Chief Executive, 英国機械学会理事長

日時： 2006.4.6(木)、 13時 - 14時(講演)
14時 - 15時(討論)

場所： 京都大学 機械工学教室 211 会議室

(参加者多数の場合には、部屋を変更
致しますので、ご注意ください。)



なお、上記演題以外に、Sir Michael Moore は下記の話題をお持ちですので、このあたりについても、討論のなかでお話いただけたらと思います。

- 1) ヨーロッパの機械技術者の将来像とそれに向けた IMechE の戦略
- 2) 日英の機械技術者の将来的交流に向けて望むこと
- 3) 機械技術者の世界的な連携とネットワーク構築に向けて日英の機械学会が協力すべき課題
- 4) 21世紀の機械技術者の教育に関する課題

準備の都合上、参加ご希望の方は、4月4日(火)までに、

shinji@prec.kyoto-u.ac.jp (西脇助教授)あて、お申し込みください。

Sir Michael Moore 略歴
Vice Admiral as the NATO Marine Chief of Staff in Naples (イタリア・ナポリ駐在の NATO 海軍の長としての副提督) を経て、1998 年から IMechE の Director General に就任。 現在 Chief Executive。 ナイトの称号 (KBE) をお持ちです。

主催：京都大学 21世紀COE (複雑系機械工学)
協賛：日本機械学会関西支部、京都大学機械系工学会

----- 注 -----

KBEは、K: ナイト、 BE: British Empire
LVO は、Lieutenant of the Royal Victorian Order